

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成21年4月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2870902406		
法人名	有限会社PPKちょうしんき		
事業所名	グループホームあんだんて西宮五月ヶ丘		
所在地	西宮市五月ヶ丘12番9号 (電話) 0798 - 75 - 2117		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年6月30日

【情報提供票より】 (21年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	2 ~ 3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	有 (円) <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> (350,000円) 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,250 円			

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護 1	5	要介護 2	4		
要介護 3	5	要介護 4	1		
要介護 5	2	要支援 2			
年齢	平均 81 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団上ヶ原病院・弥源治歯科医院
---------	---------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台にある静かな住宅街の中にあり、利用者は地域の中で落ち着いて過ごす事ができる環境にある。近隣への散歩時には住民からの声かけがあり日常的な関わりの基盤ができており、地域の一員として利用者が暮らし続けることができる環境が整っている。管理者・職員はご利用者個々のペースを把握し、日々のスケジュールを決めずにご利用者一人ひとりの意向や状態に応じ自己決定を尊重し、ご利用者の気分や体調に合わせてその人らしい日々の暮らしが過せるよう支援している。ご利用者が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう、希望するかかり付け医への受診時は必要に応じて職員が同行している。往診医が看護師を同行して定期的な往診がある。また、連携医・看護師には連絡・相談できる体制を整え健康管理面への体制作りが出来ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>評価のねらいや活用方法については管理者より会議の際に説明し、全職員でサービスの質の確保に向けて取り組む姿勢がある。前年度の評価結果は、職員へ公表し課題について話し合い評価を活かしていく取り組みがある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>今回の自己評価は、自己評価表を職員へ配布し記載されたものを基に管理者が自己評価を完成させている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>概ね2ヶ月に1回実施していたが、現在メンバーの参加調整を行っており開催の間隔があいている。議題は、活動報告後自由討議をし要望や意見も聞いている。前回の引継ぎ課題についても話をしている。参加メンバーの民生委員が地域との橋渡し役を担ってもらっており、地域の行事などの情報提供を受け、利用者の地域との交流の機会を確保していく取り組みに役立っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>全体的な意見聴取の機会はないが、家族が面会時などに利用者の情報提供をし家族が意見や要望を出しやすいようにしている。些細な意見や要望も聞き逃さないように連絡ノートを作成し職員で回覧している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>近隣への散歩時には住民からの声かけがあり日常的な関わりの基盤ができていく。地域の行事・ふれあいサロンへの参加も行い積極的に関わりを持つように努めている。地域の清掃活動へも参加し地域の一員として利用者が暮らし続けることが出来るように取り組んでいる。</p>

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し事業所独自の理念の見直しを行い、地域に根ざした事業所であることを理念に反映させている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が共通認識を持って理念が実践に活かせるよう朝のミーティング時などに唱和し、理念の浸透を図っている。		ケアの中で常に理念に立ち戻り理念を活かしたケアの実践を期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣への散歩時には住民からの声かけがあり日常的な関わりの基盤ができています。地域の行事・ふれあいサロンへの参加も行き積極的に関わりを持つように努めています。地域の清掃活動へも参加し、利用者が地域の一員として暮らし続けることが出来るよう取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価のねらいや活用方法については管理者より会議の際に説明し、職員の理解を得ている。前年度の評価結果は職員へ公表し課題について話し合い、全職員でサービスの質の確保に向けて取り組んでいる。今回の自己評価は、自己評価表を職員へ配布し記載されたものを基に管理者が自己評価を完成させている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>概ね2ヶ月に1回実施していたが、現在メンバーの参加調整を行っており開催の間隔が開いている。あいている。議題は、活動報告後自由討議をし要望や意見もらっている。前回の引継ぎ課題についても話をしている。参加メンバーの民生委員が地域との橋渡し役を担ってもらっており、地域の行事などの情報提供を受け、利用者の地域との交流の機会を確保していく取り組みに役立てている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在問題が発生していないため、積極的な関わりを持つことは出来ていないが、運営推進会議への包括の参加で情報交換を行っている。</p>		<p>広報誌などを作成し配布することでグループホームより情報発信していくことを期待する。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、各利用者の担当者が家族に向けて日頃の健康状態・暮らしの様子など個別の報告と様子などを写真入りの手紙を添えて報告している。身体状況・生活状況に変化があった場合は、電話連絡などを行い随時状況報告を行っている。また、家族の訪訪時には可能な限り家族と話し合う機会を持っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>全体的な意見聴取の機会はないが、家族が面会時などに利用者の情報提供をし家族が意見や要望を出しやすいようにしている。些細な意見や要望も聞き逃さないように連絡ノートを作成し職員で回覧している。</p>		<p>出された意見や要望を集計し分析・検討を行い質向上に向けて計画的に取り組んでいくことを期待する。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員入職時は、両フロアーを体験することで両フロアーの利用者と顔馴染みの関係を築き、ご利用者とより馴染めるフロアーに固定していくようにしている。普段よりフロアー同士の交流が保たれており、やむを得ない職員移動の場合もダメージを最小限にする配慮を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、出来る限り多くの職員が参加できるようにし、参加した職員は、ミーティングで報告を行い研修内容を共有している。		事業所内での年間研修計画を作成し、働きながら学べる環境が確保されることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と一部の職員のみであうが、市内のグループホーム連絡会に参加し交流を持つ機会がある。市内の同法人のグループホームとの相互訪問・交流はあるが、市内の他のグループホームとの交流の機会確保の必要性も感じており、交流できるよう支援方法を検討中である。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や昼間に来所されホームで過ごしてもらったり、利用者個々の状況に合わせ柔軟な対応・配慮を行い利用者が安心して納得しながらサービス利用開始ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントによりご利用者の生活歴・残存能力を把握し、利用者の心身の状況に合わせて個々の力が発揮できるようにご利用者と職員が協働で取組んでいる。ご利用者を人生の先輩として敬い、信頼される関係作りに努めている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者個々が自由に過ごせるように支援しており、利用者の思いや意向があらわし易い環境を整えている。また、センター方式を利用して家族から生活歴などを詳細に聴取し、利用者の意向や思いを把握するようにしている。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を活用した様式を使いご利用者・家族のアセスメントをおこなっている。更に全体会議や日々の職員間の小さなケアカンファレンスで、家族・日々関わる職員の気づきや意見・要望などを話し合い、利用者・家族の希望や意向が反映された介護計画を作成している。介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人・家族の希望や要望に変化がないか確認し、職員間で個別ケース記録の情報を共有すると共に、介護計画の見直しに活かしている。概ね6ヶ月に1回ケアプランの見直しを実施している。また、利用者の状況の変化や家族の要望の変化に応じた見直しようになっている。</p>		<p>日々関わる中で些細な変化がないか毎月カンファレンスで話し合いを持ち、変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直しを期待する。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>その時々々の利用者・家族個々の希望や要望にグループホームの特色を活かして支援するように取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人の希望するかかりつけ医に必要なに応じて職員が同行して受診支援している。歯科往診はないが、連携医への受診支援している。往診医に看護師が同行して定期的な往診があり、往診時は往診表でご利用者の日々の状況を提供している。連携医・看護師には連絡・相談できる体制がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向に沿って終末期の対応を行う方向性がある。現在まで終末期を受け入れるよう対応してきているが、加療の必要や苦痛の軽減の為入院に至っている。入居時に重度化・週末期に関しての話は行っている。重度化・終末期に向けた柔軟な対応を心がけている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にプライバシー確保を盛り込み、ケアの中で尊厳・プライバシーを損ねないように配慮している。また、利用者のプライバシーの確保のために、日常での声かけや対応に配慮している。また、認知症高齢者とのコミュニケーション技法・言葉遣い等の研修の機会も計画されている。		会議・ミーティング等で、個人情報の保護について話し合い、職員同士振り返り・気づきの機会を持たれることが望ましい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを把握し、日々のスケジュールを決めずにご利用者一人ひとりの意向や状態に応じ自己決定を尊重している。日々、一人ひとりへの声かけに努めご利用者の気分や体調に合わせて生活ができるように支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	調理している時の匂による五感刺激への影響の重要性を考えから、各フロアで調理を行っている。普段は、搬入業者が作成する献立であるが、2週に1回は、利用者のリクエストに応じたメニューを取り入れ買い物、調理を行っている。買い物・調理・後片付けは利用者の状況に合わせ参加してもらっている。		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	利用者の希望にあわせた時間帯に入浴支援できるように配慮している。希望があれば複数回の入浴も可能で、できる限り利用者の習慣や意向に沿った対応ができるよう取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	季節に応じた行事の実施や利用者の生活歴から把握された趣味や楽しみごとを支援してきたが、利用者のADLの低下などにより支援が難しくなっている。利用者の心身の状況に合わせた役割・楽しみごと・気晴らしの機会の確保について再検討中である。		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	年々散歩が困難な利用者が増えてきているが、個別の散歩の実施や利用者の体調に合わせてホーム前での日光浴を行うなど、ホームに閉じこもらないように支援し、気分転換や季節を感じてもらえるように配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず自由に入出入りが出来るようにしている。職員は、施錠による利用者への弊害を理解し、また、カメラ・センサーによる監視をしないよう利用者の行動パターンを把握し見守りを徹底し鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方にも参加してもらい防災訓練を実施している。今後も地域との話し合いを持ち協力体制を築いていく必要性を感じている。		昼夜を通した災害時の具体的な避難策について検討し、訓練を継続していくことを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成し食事量・水分量を把握している。必要であれば栄養補助食品などを利用して利用者一人ひとりの体調の変化を来さないよう支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が移動しやすく、思い思いに過ごせるように椅子やテーブル・家具を配置している。観葉植物や季節の飾りや置物を置き、居心地良く季節を感じながら生活できる空間づくりを行っている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より馴染みの家具や使い慣れた物を持ち込んでもらうように家族に働きかけ、利用者の生活や趣味が伺える居室となっている。		

 は、重点項目。